

大腸癌悪性度評価における
分子マーカー発現に関する研究

16591357

平成16年度～平成18年度科学研究費補助金
(基盤研究(C)) 研究成果報告書



平成18年3月

研究代表者 齋藤 登

東京女子医科大学医学部講師



大腸癌悪性度評価における

分子マーカー発現に関する研究

16591357

平成16年度～平成18年度科学研究費補助金

(基盤研究(C)) 研究成果報告書

平成18年3月

研究代表者 齋藤 登

東京女子医科大学医学部講師

<はしがき>

多くの癌腫のなかでも大腸癌は約 20%前後に肝転移を生じることが多く、また肺転移は必ずしも肝転移の後に生じるとも限らない現状に多くの臨床医は苦悩している。手術的手法の面からは多くの検討がなされてきたが、生命予後を左右する転移に関しては生物学的悪性度をどう見極めるかということに異論の余地はないと思われる。そこで我々は、癌の浸潤～転移メカニズムのうち、細胞接着および細胞増殖に関するメカニズムが重要な鍵を握ると考え、その責任因子を解明する考えに至った。具体的には細胞外マトリックスを構築する分子や細胞間接合に関与する分子、脈管内を遊走し転移巣での接着～生着に関与する分子の同定とそれらの動きを合目的につかさどる増殖因子の策定を行った。

研究組織

研究代表者 : 齋藤 登 (東京女子医科大学医学部講師)

研究分担者 : 廣澤知一郎 (東京女子医科大学医学部助手)

研究分担者 : 小川 奈美 (東京女子医科大学医学部助手)

研究分担者 : 山田 暁輝 (東京女子医科大学医学部助手)

(研究協力者 : 島田和加子 (東京女子医科大学医学部)

中澤 哲 (東京女子医科大学医学部)

橋本 拓造 (東京女子医科大学医学部)

小暮 晃子 (東京女子医科大学医学部)

野口英一郎 (東京女子医科大学医学部)

須田 淳子 (東京女子医科大学医学部)

地曳 典恵 (東京女子医科大学医学部)

交付決定額（配分額）

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
平成16年度	600000	0	600000
平成17年度	500000	0	500000
平成18年度	500000	0	500000
総計	1600000	0	1600000

研究発表

（1）学会誌等

1. Takuzo Hashimoto, Noboru Saito, Shingo Kameoka, Noriyuki Shibata, Makio Kobayashi:
Clinical significance of hepatocyte growth factor and its specific receptor c-Met expression in colorectal cancer progression
Acta Histochemica et Cytochemica Vol.37 No.2 2004.3
2. Kumi Nagao, Kenji Katsumata, Yoshio Aizawa, Noboru Saito, Hiroyuki Hirata, Hiroshi Sasaki, Shigeki Yamamoto, Kazumasa Hikiji, Tsukasa Koiwa, Hisashi Hisatomi:
Differential alternative splicing expressions of telomerase reverse transcriptase in gastrointestinal cell lines
Oncology Reports Vol.11 No.1 2004.1
3. 中澤 哲, 齋藤 登, 亀岡信悟: ヒト大腸癌悪性度評価における MMP-2, 9, E-cadherin 発現の臨床的意義 東京女子医科大学雑誌 74 巻 1 号 2004.1

4. 齋藤 登、山田暁輝、橋本拓造、廣澤知一郎、小暮晃子、小川奈美、大幸和加子、亀岡信悟：大腸癌の 東京女子医科大学総合研究所紀要 25 巻 2004. 8
5. 大幸和加子，齋藤 登，亀岡信悟：大腸癌悪性度評価における TGF- β 1 発現の臨床的意義 日本大腸肛門病学会雑誌 58 巻 7 号 2005. 7
6. Noboru Saito, Shingo Kameoka, Serum : Laminin is an independent prognostic factor in colorectal cancer
International Journal of Colorectal Disease Vol. 20 No. 3
2005. 5
7. 齋藤 登、亀岡信悟：癌転移抑制療法の基礎実験 東京女子医科大学実験動物中央施設年報 第 10 号 2006. 3

(2) 口頭発表

1. 齋藤 登、廣澤知一郎、大幸和加子、中澤 哲、西村 基、橋本拓造、小川奈美、小暮晃子、板橋道朗、瀬下明良、亀岡信悟：大腸癌予後因子としての細胞接着分子解析と治療へ向けた臨床的意義
第 104 回日本外科学会定期学術集会 シンポジウム 2004. 4
2. 橋本拓造、齋藤 登、中澤 哲、西村 基、廣澤知一郎、小暮晃子、大幸和加子、曾山鋼一、亀岡信悟：大腸癌進展度評価における HGF/c-Met 系発現の臨床的意義

3. Noboru Saito, Shingo Kameoka :
Serum laminin level is a predictive marker of high risk group
in colorectal cancer
19th World Congress of International Society for Digestive
Surgery 2004. 12
4. 山田暁輝、齋藤 登、廣澤知一郎、大幸和加子、中澤 哲、
橋本拓造、小川奈美、小暮晃子、亀岡信悟： 胃癌における
Epidermal Growth Factor (EGF) 発現の臨床的意義
第 60 回日本消化器外科学会総会 2005. 7
5. 野口英一郎、齋藤 登、橋本拓造、須田淳子、地曳典恵、
山田暁輝、小川奈美、廣澤知一郎、大幸和加子、亀岡信悟：
胃癌進展度評価における血清学的 HGF 定量の臨床的意義の検討
第 61 回日本消化器外科学会総会 2006. 7
6. 須田淳子、齋藤 登、大幸和加子、地曳典恵、野口英一郎、
山田暁輝、橋本拓造、小川奈美、廣澤知一郎、亀岡信悟：
胃癌進展度評価における TGF- β 1 発現の臨床的意義
第 61 回日本消化器外科学会総会 2006. 7
7. 地曳典恵、齋藤 登、須田淳子、野口英一郎、山田暁輝、
橋本拓造、小川奈美、廣澤知一郎、大幸和加子、亀岡信悟：
大腸癌進展度評価における FGF 発現の臨床的意義
第 61 回日本消化器外科学会総会 2006. 7
8. 山田暁輝、齋藤 登、廣澤知一郎、大幸和加子、中澤 哲、
橋本拓造、小川奈美、小暮晃子、亀岡信悟：胃癌における
Epidermal Growth Factor (EGF) 発現の臨床的意義
第 61 回日本消化器外科学会総会 2006. 7

9. 須田淳子、齋藤 登、大幸和加子、野口英一郎、地曳典恵、山田暁輝、亀岡信悟：
胃癌進展度評価における TGF- β 1 発現の血清学的及び組織学的検討
第 44 回日本癌治療学会総会 2006.10

10. Atsuko Suda, Noboru Saito, Akiyoshi Seshimo, Shingo Kameoka :
Examination of transforming growth factor β 1 expression in the serum and tumor tissue of gastric cancer
20th World Congress of International Society for Digestive Surgery 2006.11